



社会福祉法人美熊野福祉会 障害者支援施設 杉の郷

〒647-1214 和歌山県新宮市熊野川町赤木1522-1
 TEL 0735-45-2314 FAX 0735-45-2001
 メールアドレス sugi2001@za.ztv.ne.jp
 ホームページ http://www.za.ztv.ne.jp/sugi2001/



ごあいさつ

障害者支援施設 杉の郷
 施設長 上地 義晴

平素は杉の郷に対しまして、温かいご協力並びに多大なご支援を頂き、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

お蔭様で施設入所の利用者の皆様は、日々元気で充実した生活を送っております。

当施設も障害者自立支援法に基づく新事業体系に移行して、本年で3年目を迎えております。

本年度はこれまでの個別支援計画を元に、更に向上させ、利用者の個性を尊重しながら楽しみごとを少しずつでも増やしていく支援内容といたしております。具体的には、「日帰りでの小旅行・ドライブ」或いは「交通機関を利用しての一人での買物」更には「海水浴・川遊び・映画鑑賞・ボーリング」等々であります。このような活動を行うことにより、地域社会での生活にふれ、或いは地域の人々との交流の機会を増やすことが、少しでも社会的自立につながり、生活の質の向上につながっていくものになれば幸いです。

こういったことを実施することにより、多くの方々にご迷惑をかけること

も多々あることと思っておりますが、何卒ご理解頂き、温かい目で見守って頂きますようお願いする次第であります。

更には、例年恒例として行っております旅行・盆踊り大会・運動会・もちつき大会等を行うとともに、熊野川中学校との交流会や、施設外学習を通し、四季折々の自然に触れることにより情操の育成にも努めてまいります。

杉の郷が開設されて22年が経過いたしました。その間、順調に運営してこれたのも地域の皆様はじめ多くの皆様方のご支援・ご理解があつてのことです。このことを常に忘れることなく、地域とのつながりを大切に、私どもでお手伝いできることは積極的にいき、少しでも恩返しができるよう心がけてまいる所存であります。

また、施設もかなり老朽化が進んできておりますが、それなりの趣もありますので、悪いところは修繕等を行うとともに、これまで以上に清潔な環境を保持し、利用者の皆様にとって安全・安心な生活環境を提供し、更にはご家族に信頼される施設づくりに全職員一丸となって頑張っている所存であります。

今後とも、変わらぬご指導・ご協力賜りますようお願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。



班活動

1班 食事会&カラオケ

7月13日、1班全員(25名)で食事会【かつ浜】とカラオケボックス【1丁目】へ行ってきました。事前に注文していた料理を堪能した後、カラオケボックスへ直行。人数が多く1部屋には入りきれず、3部屋に分かれました。1班利用者にとっては初めての経験だったためか最初は「ここは何処?」みたいな顔をしていましたが、カラオケと分かると笑顔になり、腕を上げて張り切って歌ったり、曲に合わせて体を揺すったりしていました。飲み物が出てくるとますます笑顔に。丁度盛り上がってきた所で時間切れとなり名残惜しみながら部屋を出てきました。施設でも毎週カラオケをしていますが、こんなに喜んでくれるなら又行きたいと思いました。(支援員 加藤)



障害者自立支援基盤整備事業完了のお知らせ

このたび和歌山県より、平成21年度障害者自立支援基盤整備事業の助成金の交付を受け、下記事業を完了いたしました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に和歌山県をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

1. 事業名 10人乗りワゴン車
2. 助成金額 3,360,000円
3. 完了年月日 平成22年3月31日



班活動

5班 海水浴



7月21日夏空の下、5班の利用者さん7名と職員7名で新宮市三輪崎の海水浴場に出掛けてきました。

海水浴場は、数日前から停滞していた前線が日本列島から徐々に遠ざかり、暑い日差しで浜の砂が眩しく、またビーチサンダルの隙間から焼けた砂が入り込んで、足の裏が焼そうなくらいの暑さでした。

足の裏の熱さを冷ますように一歩足を海水につけると、気持ち良く水の冷たさが体に伝わり、一気にみなを気分を高めていました。腰の辺りまで海水に浸かるころには、海水の温度にも慣れて、一歩一歩つま先で足元の深さを確かめるように海に入って行きました。胸までつかると手足は自然に水をかき始め、離陸する飛行機のように体が浮きました。空を見上げると小さな雲が浮かび、沖の景色は遠く薄い水色で、みな笑い声と波の音が響きました。

泳げる方は器用に泳ぎ、浅い所で遊ぶ方も浮き輪の上からお尻を入れ、等間隔に打ち寄せる波のリズムに合わせ、自然に笑い声が出ていました。

久しぶりの海水浴に体も気持ちも開放されたような一日でした。(サービス管理責任者 飯塚)



ランチへ行ってきました



杉の郷では、食事を通していろいろな場面を設定し、社会性を身につけていくことを目的に、毎年施設の外に食事会に行っています。今年は、洋食・フランス料理・回転寿司の3つのグループに分かれて行ってきました。

そのひとつ、私はラハイナでの食事会に同行しました。出発前から「今日は楽しみやね」という声が聞かれ、利用者の皆さんは、とても楽しみにしていました。ナイフとフォークを使えるか心配していましたが、上手に使う事が出来、施設では味わえない雰囲気や、ランチのフルコースの美味しい料理を堪能しました。利用者の皆さんも終始笑顔で、幸せそうな表情をしていて、とても嬉しく思いました。

これからも、外へ出かける機会を増やし、杉の郷の利用者さんを地域の方々に理解してもらう事が大事だと思います。(支援員 尾仲)



職員紹介



私が杉の郷で働かせて頂くようになって2年半が経ちました。以前も3年程福祉の現場で仕事をしていたのですが、杉の郷では、重度の障害を抱えている利用者さんが多く、正直、始めは大きな戸惑いや緊張感を感じていました。

言葉でのコミュニケーションは難しい。どうやって利用者さんの事を理解し、支援していけば良いのだろうと、私は不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし、日々利用者さんと接し、支援させて頂き少しずつではありますが、何を思い、何を伝えたいのか、分かるようになってきたと思います。自分が笑顔で接する事で、利用者さんの笑顔は生まれる。その笑顔を見て私も沢山の勇気や感動・強さをもらっています。

まだまだ未熟者ではありますが、先輩方に色々な事を教わり、指導を受け、これからも利用者さんの笑顔を大切に、同じ時間を楽しく共有していければと思います。(支援員 小坂)

杉の郷にお世話になり始めてから4年目になりました。杉の郷でお世話になり始めた頃は、福祉の経験や専門知識も無く、また利用者の名前と顔もなかなか一致せず不安な毎日を送っていました。先輩職員との話の中で、福祉の経験が無いのだから時間をかけてゆっくりと覚えて行って欲しいとお話が有り、少しですが気持ちにゆとりを持たせた事を憶えています。

杉の郷に入所されている利用者さんは、普段生活を送っている方と違って様々な障害を持っています。自閉症や統合失調症など日々の状態によって変化する利用者さんに適切に対応して行かなければ行けません。また、てんかん発作をお持ちになっている利用者さんの対応の仕方も個々によって違いが有ります。経験が無い私に取って、日々ついて行くのに精一杯だった事を思い出します。先輩職員にいろいろ教わる事で、少しずつですが、落ち着いて対応出来るようになりました。また、利用者さんと接する機会を積み重ねる事で会話や笑顔、そして少しずつですが信頼関係が構築されて来たと思います。まだまだ経験不足で未熟者ですが、利用者さんから喜んで貰えるような支援に努めて行きたいと思います。(支援員 和田)

共同生活介護事業 ホームさんさろより



ケアホームでは、県内に住む美熊野福祉会以外のグループホーム・ケアホームとの交流会が、毎年2回(一泊旅行、のど自慢大会等)行われています。今回は、この交流会について紹介します。

平成21年10月23日(金)~10月24日(土)の二日間にわたり、「潮岬青少年の家」において、新宮・東牟婁圏域に住むグループホーム・ケアホームの交流会が行われました。他のホームの利用者さんと、交流会を通して親睦を深めるのが目的で、美熊野福祉会の障害児者相談センター「ゆず」、県福祉事業団の障害児者相談・生活サポートセンター「とも」が企画をしてくれました。

美熊野福祉会からは、ケアホーム利用者全員18名(ホームさんさろ4名、ほっとホーム7名、ホーム赤木7名)、杉の郷・ゆず職員8名の合計26名が参加しました。県福祉事業団からは28名が参加しました。

昨年も行われたので、一年ぶりに会う友達に、『お久しぶり!』という声かけをする利用者さんもおり、すぐに打ち解けた雰囲気となりました。

初日は昼過ぎに「潮岬青少年の家」に集合し、車で串本大橋を渡って榎野埼付近を散策しました。トルコ軍艦遭難記念碑を通り過ぎ、榎野埼灯台では紺碧の広い熊野灘をバックに記念写真を撮る方もおられました。夕食には美味しい

ハンバーグが出ました。その後レクリエーションタイムで、音楽を通じて歌や手遊びを楽しみました。

二日目は朝食を食べ身辺整理と後片付け、県福祉事業団のホームの人達とお別れし、太地町梶取崎経由でドライブし、太地町多目的センターで休憩・昼食をして昼過ぎに帰ってきました。

2回目は平成22年2月13日(土)、「上富田町福祉センター」において、和歌山県に住むグループホーム・ケアホームの「のど自慢歌合戦」が行われました。県内のホームの利用者さんが集い、交流の場を設けることで人と人との繋がりを作るのが目的で、和歌山県知的障害者施設協会グループホーム・ケアホーム部会が企画をしてくれました。

美熊野福祉会からは、利用者・職員の合計17名(出演者は3名)、全体では利用者・引率職員・スタッフを含めて約200余名が参加しました。約30チームのエントリーがあり、それぞれ日頃のカラオケでの成果を出して熱唱していました。審査員は各施設の職員がユニークなキャラクターに変装し、曲間にもおもしろいコメントをしていました。「のど自慢歌合戦」の他にゲームもあり、たいへんに盛り上がった楽しい一日でした。

これからもケアホームでは、地域での幅広い活動、利用者のリクエスト(お楽しみ)に応えられるよう支援を続けて参ります。(サービス管理責任者 菊谷)



「潮岬青少年の家」1Fベランダにて



榎野埼灯台付近散策



「DAYBREAK'S BELL」を熱唱



会場内の様子